

平成 27 年度京都府公立高等学校中期入学者選抜のための学力検査の出題について

(その 1)

<出題方針>

中学校学習指導要領に基づき、各教科とも標準授業時数での学習範囲から中学校で学習する基礎的・基本的な内容に重点を置くとともに、知識・技能等を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等が的確に把握できる出題とする。また出題範囲は、中学校学習指導要領の趣旨に沿った、生徒が履修している各教科の内容を踏まえた適切なものとなるようにする。

<特徴>

基礎・基本の定着、論理的思考力や判断力・表現力をみる

中学校で学習する基礎的・基本的な内容の定着をみるとともに、語句、表現及び図示などの記述式解答を求める問題も設け、生徒が身に付けた様々な知識・技能等を活用して比較・分析し、総合的に考え、判断・解決できるかどうかをみた。

<各教科の特色と傾向>

【国 語】

- 1 古文では、中世の文章を題材とし、内容を読み取る力をみるとともに、歴史的仮名遣いや漢文の返り点などについて問い、古典を理解するための基礎が身に付いているかどうかをみた。また、古典に親しむ態度の育成を重視した出題となるように留意した。

〔出典〕「十訓抄」(「新編日本古典文学全集」小学館より)

鎌倉時代中期に成立したとされる説話集で、作者は未詳。

問題文は、蹴鞠に日々精進する藤原成通の前に蹴鞠の精霊が姿を現したという逸話をもとに、努力し続けることの難しさと大切さを述べた文章である。問題文の内容を読み取ることで、古典に表れたものの見方や考え方に触れ、古典への興味・関心を深めることに期待する。

- 2 現代文では、筆者の論理の展開をとらえて内容を理解する力をみるとともに、言葉の特徴やきまりに関する事項、漢字に関する事項についての理解をみた。また、「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」の内容に関連する問題を設けた。なお、思考力・判断力・表現力等を重視した出題となるように留意し、文章の構成に関する問題も設けた。

〔出典〕「科学的思考とは何だろうか——ものづくりの視点から」 瀬戸一夫 (ちくま新書)

問題文は、科学的思考を題材として、科学的な発見が日常生活での体験から生み出されることや、科学者が理論や科学的知識をどのように作りあげるかについて書かれた文章である。本文の内容を的確に理解することで、科学に対する関心や理解を深め、科学的思考を育む契機となることに期待する。

【社 会】

- 1 基礎的・基本的な内容についての理解をみるとともに、論理的に思考する力や公正に判断する力が身に付いているかどうかをみた。また、多面的・多角的に考察する力をみるため、大問すべてにおいて地理的分野・歴史的分野・公民的分野の各分野の内容を関連付けた融合問題とした。
- 2 様々な資料を適切に選択、活用し、表現する力をみるため、地図や統計資料の読み取り・作図などの問題を多く設けた。また、各時代の特色を踏まえて歴史の大きな流れを理解しているかどうかをみる問題を設けた。さらに、少子高齢化、情報化、グローバル化など現代社会の変化について着目する契機となるように出題を工夫した。

【数 学】

- 1 数量や図形などに関する基礎的・基本的な知識及び技能を習得できているかどうかをみるとともに、それらを活用して様々な事象を数理的にとらえ、見通しをもって論理的に考察する力をみた。
- 2 与えられた資料(レシート)から必要な情報を選択、活用する問題を設け、思考力・判断力をみた。また、基石を並べる問題では、事象を数理的にとらえ、根拠をもって法則を見いだし、問題を解決する力をみるように工夫した。

平成 27 年度京都府公立高等学校中期入学者選抜のための学力検査の出題について

(その 2)

<出題方針>

中学校学習指導要領に基づき、各教科とも標準授業時数での学習範囲から中学校で学習する基礎的・基本的な内容に重点を置くとともに、知識・技能等を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等が的確に把握できる出題とする。また出題範囲は、中学校学習指導要領の趣旨に沿った、生徒が履修している各教科の内容を踏まえた適切なものとなるようにする。

<特徴>

基礎・基本の定着、論理的思考力や判断力・表現力をみる

中学校で学習する基礎的・基本的な内容の定着をみるとともに、語句、表現及び図示などの記述式解答を求める問題も設け、生徒が身に付けた様々な知識・技能等を活用して比較・分析し、総合的に考え、判断・解決できるかどうかをみた。

<各教科の特色と傾向>

【理 科】

- 1 自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識及び技能を身に付けているかどうかをみた。また、観察や実験に関する設問を通して、得られた事実を客観的にとらえ、事象や結果を分析して解釈する力を身に付けているかどうかをみた。
- 2 今年度は、探究的な活動を題材とした問題において、身近な事物・現象に対する興味・関心を高める出題となるよう工夫した。また、第1分野（物理的領域及び化学的領域）と第2分野（生物的領域及び地学的領域）が関連する内容についての設問を通して、総合的な見方や考え方を身に付けているかどうかをみた。

【英 語】

- 1 英語でのコミュニケーション能力の基礎となる知識・技能を習得しているかどうかをみるとともに、それらを活用して思考・判断・表現する力が身に付いているかどうかをみた。なお、4技能（「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」）を統合的に活用する力をみる出題となるように留意した。
- 2 読解問題は、スタイルの異なる2つの文章から出題した。海外からの訪問者とのよりよい関わり方に関する英文では、語句や文、文法などに関する知識が身に付いているかどうかをみた。さらに、内容を正しく読み取る力や理解した内容を英語で表現する力もみた。また、空港の出発案内を題材とした会話文では、特に、必要な情報を整理して、思考・判断する力をみる設問となるように工夫した。
- 3 リスニング問題では、会話を聞いて情報を正確に理解し要点を聞き取る力や、質問に対して適切に応答する力が身に付いているかどうかをみた。